

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-01-16-02
事務事業名	日生斎場維持管理事業		
事業開始年度	昭和62年度～		
大項目	基本目標	担当課(室)	環境課
中項目	基本施策	職・氏名	衛生係長・森本和成
小項目	施策	電話	64-1821
総合計画	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合せ先	
	生活しやすいまちづくり		
	火葬場・墓地		

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	斎場を利用する全ての市民・市外の利用者
目的(何のために)	適正な火葬執行を行うため。
行政活動(どのような方法で)	適正に火葬を執行するために斎場・霊柩車等の維持管理を行う。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	葬儀を執行するにあたり、火葬炉施設の故障や職員の対応等により、利用者に不快感を与えない。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	火葬執行	件	84	64	73
事業費	直接事業費	千円	12,611	11,198	10,716
	人件費	千円	1,240	2,050	1,395
財源	事業費計		13,851	13,248	12,111
	国県支出金		0	0	0
受益者負担	千円	2,253	1,825	1,920	
市一般財源		0	0	0	
必要人員	人	0.35	0.25	0.18	
結果指標	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	火葬執行数	説明			
	結果指標量	件	84	65	73
	対前年比	%	-	77.4%	112.3%
	活動コスト	円	13,851,000	13,248,000	12,111,000
結果指標	説明				
結果指標量	人				
対前年比	%				
活動コスト	円				
結果指標	説明				
結果指標量	人				
対前年比	%				
活動コスト	円				
結果指標	説明				
結果指標量	人				
対前年比	%				
活動コスト	円				

事業の成果			
成果指標名	火葬執行業務は、成果指標となる判断基準がないため。	式又は説明	事業費 / 日生地域世帯数3,114世帯
成果指標量	17年度	18年度	19年度
	4,480	4,254	3,889
対前年比		94.96%	91.42%
到達目標値	斎場運営コストの削減	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	A
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している		
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	火葬執行については、関係法令等に基づき適正で効率的に処理している。	
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である		
市の関与	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	効率性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である		課題認識
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	斎場、待合棟が老朽化しており、維持管理費が高騰している。	
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい		
効率性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難		
	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある		
手続	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている		
職場	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている	有効性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		課題認識
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	火葬執行については死亡者の数により増減するため件数だけで判断するのは難しいが、施設利用者がいる限り継続する必要がある	
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである		
市民参画度	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある		
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している		
<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している			
<input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している			
<input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている			

平成20年度の状況		説明	必要不可欠施設のため。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 73	結果指標量	
成果指標量	斎場運営コストの削減		

総合評価		評価区分<A-E>	B
施設の老朽化等により、施設の維持管理費は年々増加していくと思われる。現状では、コスト削減は難しい。使用料を統一する必要がある。			

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	斎場運営コストの削減のために委託経費の削減を図るとともに、市内の斎場の統一を模索する	平成22年度	斎場運営コストの削減が図れ、効率化ができる。